

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4150480020
法人名	医療法人社団高仁会
事業所名	グループホーム 悠々
訪問調査日	平成 19年 9月 13日
評価確定日	平成 19年 10月 15日
評価機関名	佐賀県社会福祉協議会

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
[取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
[取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
[取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4150480020		
法人名	医療法人社団高仁会		
事業所名	グループホーム 悠々		
所在地	多久市北多久町多久原2512番地24 (電話)0952-75-3551		
評価機関名	佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成19年9月13日	評価確定日	

【情報提供票より】(平成19年 4月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 12 年 10 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤 14 人, 非常勤 0 人, 常勤換算 6.5 人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り 3階建ての1階部分		
------	-------------------	--	--

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	7,500 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	300 円	昼食	350 円
	夕食	350 円	おやつ	0 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(4月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	7 名	要介護2	7 名		
要介護3	4 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84 歳	最低	77 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団 高仁会 中多久病院
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

駅から近い静かな住宅街に位置し、病院に隣接して建つ三階建ての1階部分がグループホームである。2階の居宅介護支援センターや病院とは、緊急時や避難訓練などお互い協力して実施している。経営母体が病院で医療連携体制ができており、入居者や家族の安心につながっている。「散歩クラブ、ゲームクラブ、大地の会、おどりの会」の各クラブ活動があり入居者は毎週楽しみながら参加している。ホーム新聞にはクラブ活動の様子や、入居者が育てている菜園の野菜の生育状況、暮らしの風景などが掲載され、家族と入居者の情報の共有に役立っている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	地域とのつながりや交流に課題があり、全職員と話し合い検討を重ねた。運営推進会議にはかり、地域住民の委員を増員するなど、より地域交流を意識したサービスに取り組んでいる。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員で自己評価に取り組みケアの振り返りや見直しにつなげ、質の向上に活かしている。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	入居者の日々の状況や評価・行事報告、双方向の意見交換が行われ、ケアサービスの向上やホームの理解を深められるよう活用している。病院の敷地内に建つホームで地域の方々が入り難いという声があったため、地域の方に足を運んで頂く工夫を運営推進会議で相談した。結果、老人クラブ会長の委員依頼や地域ボランティアの受け入れにつなげている。区長との連携も強化した。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	職員は家族の面会時には必ず声を掛け、話をして情報交換するよう心掛けている。ホーム玄関や隣接病院に意見投函箱が設置されている。意見記入用紙「みなさまの声」は家族に配布されていて、いつでも意見を表せる機会を設けている。出された意見や情報はすぐ会議にかけられ、サービス改善につなげている。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	アルミ缶やトレイ回収などのリサイクルには参加しているが、地元住民との交流は十分でない。運営推進会議にはかり、区長や地区役員・地域のボランティアなどを通して地元住民と交流できるよう取り組みを進めている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域と共に歩むサービスを目指したホーム独自の理念として「入居者の人格・ペースを尊重し、家庭的な雰囲気の中で家族の一員と認め合う生活」をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎週理念の確認と唱和を行い、理念の共有に努めている。問題点があった時管理者は、原点に戻って考えることを大切にし、理念を言葉にして話をするを心掛けている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域密着型サービスの役割を理解し、地域の一員として地元と交流することを心掛けている。アルミ缶やトレイ回収には参加しているが、地元住民との交流は十分でなく自治会にも入会していない。	○	区長や地区役員・地域のボランティアさんを通して、地元住民との双方向の関係が築かれ、一層の関わりができる事を期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回外部評価の結果について全職員で話し合いを持ち、要改善点は更に検討を重ね、サービスの改善に活かしている。今回の自己評価は全職員で取り組み、ケアの振り返りや見直しにつなげた。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は区長、民生委員、利用者家族などからなり、2ヶ月に1度開催されている。議事録他関係書類も残されている。評価の結果を開示し、より地域に理解されるホームとなるよう意見交換がされている。委員の発案により老人クラブ会長などを運営推進会議委員に追加し、より質の高いサービスの向上に取り組んでいる。	○	運営推進会議のより一層の充実により、委員の参加意欲につながる様な双方向の会議になることを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	経営母体の法人が行政との窓口になっており、ホーム独自では行政の担当者との交流は行われていない。	○	市にホームの実情を理解してもらいお互いの信頼関係を築けるよう、行政担当者との交流が重要と思われる。地域密着型サービスの役割を踏まえ、一層の協働関係が築かれる事を期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホーム菜園の様子やクラブ活動紹介、一日の暮らしの風景や行事予定、お知らせなどホームの日々の様子や大体の雰囲気わかる「新聞」を発行し家族に送っている。家族の面会時必ず声を掛け話をするを心掛けており、日常の様子や健康状態を伝えている。面会が少ない家族には電話で連絡をとり、報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口を明記し、玄関には投函箱が設置されている。記入用紙「みなさまの声」を家族に配布し、いつでも意見を表せる機会を設けている。頂いた意見はミーティングに活用し、ケアサービスに活かしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は法人本部において決定されるが、ホームの特性を考え異動は最小限に配慮されている。代わる場合は入居者とのなじみの関係を重視し1～2ヶ月のサブ期間を設けている。入居者には代わることを伝えて、混乱を防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月1回のホーム内研修と月2～3回の法人内研修が開催されている。外部の研修会開催情報はその都度職員に示される。希望すればできる限り参加できるように支援されている。研修内容はミーティングに活用し、日々の業務に活かされている。新人研修も開催されている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に入会して研修会や交流会に参加し情報交換を行っている。地域の同業者とも交流の機会を持ち、サービスの質の向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホームの見学を通して十分な説明をし、安心して入居できる支援が行われている。入居前に簡単な役割を体験したり、他の入居者と触れ合いながら馴染みの関係を形成するなど支援されている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	着物の着付けを手伝ったり、料理法や味付けなどを職員に指導する入居者もいる。職員と入居者は家族のように支えあい学びあう関係ができている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前に十分話し合い、希望や意向の把握に努めている。職員は日々の生活を通して入居者と話す事を心がけ、会話の中から思いを汲み取る努力をしている。意思疎通が困難な入居者には、家族の面会時に情報を得る努力をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者や家族と十分話し合い、具体的な介護計画が立てられている。毎月の会議や日常のケアの中で、何か有ればその都度ショートカンファレンスがもたれ、先延ばしをすることなく対応している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月の定期見直しと状態変化があった時はその都度見直しが行われている。毎月のミーティングでは入居者個々の介護計画の確認が行われ家族に報告されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	事業母体が病院であり医療連携体制ができていて、軽い病変でもすぐに連絡をとり受診できる体制がある。家族や本人の要望で、病院の送迎や墓参り・お寺参りなどの外出支援も柔軟に行われている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医の継続を支援し、安心して医療を受けられるような体制ができています。通院などの送迎は利用者や家族の要望に沿って支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に関する指針があり、入居時に説明が行われている。入居者や家族の意志を確認しながら取り組んでおり、全員で方針を共有している。		
1. その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	常に入居者の尊厳を大切にした対応がなされている。職員にはプライバシー教育を実施し、家族には接遇アンケートが実施されるなどホーム全体でプライバシーの確保に取り組んでいる。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩や買物、ドライブ・音楽会参加などは入居者に回覧板を回して希望を聞くなど、一人ひとりのペースを大切にした支援がされている。一日の流れは緩やかで、決まり事を作らない支援を心掛けている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	家族一緒に食事をとる事の大切さを理解し、職員と入居者は同じテーブルで楽しい会話をしながら食べている。調理や配膳・後片付けなど入居者ができる事は職員が見守りながら支援している。毎週1回入居者がその日に決める「お好みメニュー」の日を設け、食事がより楽しみなものになるような工夫がされている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	望まれる入居者には毎日・いつでも入浴が可能である。一人でゆっくり入浴を楽しめる支援がされている。友人や家族と入る方もいる。入浴を拒む入居者には無理強いをせず、職員が優しい声掛けをしたり入浴剤を使用し入浴を促している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	手芸、習字、園芸、調理や食事の挨拶、新聞取り、ごみ捨て、その他生活歴を活かした役割や楽しみごとがある。小鳥や金魚などペットの世話をする方もいる。「散歩クラブ」「ゲームクラブ」「大地の会(園芸)」「おどりの会」などのクラブ活動を実施し、楽しみごとや気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買物や散歩、園芸作業、ごみ捨てなど入居者が希望されれば職員はできる限り支援している。ドライブの他、入居者の要望で電車に乗っての外出もある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関や裏口の鍵は夜間のみで日中は施錠していない。職員は常に入居者の状況を把握するよう心掛けている。出入口にはセンサーが設置され入居者の出入りが気づき易くなっている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	隣接の系列病院とは火災報知機が連動しており、合同で避難・防災訓練を年3回実施している。緊急事態にも対応できるような内容の訓練となっている。	○	地域密着型サービスを考え、地域住民の協力が得られるような訓練が期待される。近隣の住民等の参加協力も期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は職員の管理栄養士がみており、栄養バランスの把握はできている。水分はいつでも飲めるよう支援されており、食事からの分を省いて1日1～1.2リットルの水分摂取を確認している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、廊下、居間にはテーブルやソファを置き、季節の花も飾られ落ち着いた寛ぎの空間を創っている。職員はホーム内の換気を心掛け、空気のよどみや不快な臭いが無いよう気を付けている。ホームの照明は自然な光を心掛け、白色と昼光色を使い分けて使用し、落ち着いて居心地よく過ごせるような工夫をしている。日差しの強い時はよしずやカーテンで調節している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は畳敷きで何でも持ち込み可能である。使い慣れた椅子や机・鏡台、仏壇を持参されている入居者もいる。壁には写真やカレンダー・手芸作品が飾られ、その人らしい居室づくりがされている。		